第 13 回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催しました（2018/05/30）

テーマ：感染制御と治療薬の融合
場所：東北大学医学部６号館１階カンファレンス室（宮城県仙台市）

表記セミナーを開催し、児玉 栄一先生（災害科学国際研究所・災害感染症学分野）「感染制御と治療薬の融合」の講演が行われました。

はじめに、先生は「感染症そのものが災害である」ということを語りました。身近に起こるアウトブレイク・パンデミック（国家もしくはいくつかの国家を含んだ地域内で流行している伝染病）、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザや麻疹などの発症事例が提示され、これらの感染経路、予防・治療方法、および流行した国々の文化背景について紹介しました。また、日本国内で新型ウイルスが初めて確認された際の取り組みが成功例として挙げられました。感染症対策の中、抗菌薬が効かない現状、「スーパー耐性菌」の薬剤耐性問題に対するアクションプラン、およびその達成目標、東北大学病院内の取り組み、特に感染症診療および地域連携の推進が重要であることを踏まえて国際目標より早く達成したことを紹介しました。最後に、災害時の感染症対応について、避難施設などに消毒薬の備蓄、震災時衛生資源と人材の不足における企業との協力・支援体制の構築、および学会などの行政的対応の必須を提案し、限られた物質が有効に使用して最初の 1 例目を抑えるべきことを強調しました。また、被災者の自己保護によるインフルエンザの流行の抑制、標準予防策の教育および予防薬としてカプセルの活用方法を紹介し、良好な治療法および治療薬（ワクチン）の棲み分けが感染をほぼゼロにすることが可能であることを強調しました。講演後には、被災現場における具体的な対策についての質疑応答があり、ローカルルールの排除、アウトブレイクにおけるガイドライン、情報集積および制御システムの国際協力体制の確立による感染症の撲滅が重要な位置づけであること、さらに、地域、行政、および学校との連携が望まれることが提案されました。

児玉栄一先生

会場の様子

文責：兪志前（災害と健康ユニット）